石狩地区

新規就農者紹介



【岡田さん】

ファームGAKU
岡田　優子 さん（石狩市）

2026年９月取材

就農年：2025年
経営形態：施設栽培
作　物：ミニトマト、
　　さつまいも等（約1.5ha）
出荷先：JA・直売所

@FARM_GAKU

↑
「ファームGAKU」のインスタグラムはこちらから

※岡田さんご夫婦は山が大好きで、夏は登山、冬はスノーボードを楽しんでいます。このことから、農園の名前を考えた際は迷うことなく「ファームGAKU」と名付けました。

【就農のきっかけ】

父方の祖父母が兵庫県で米農家を営んでおり、その姿を身近に見て育ったこともあって、幼い頃から農業に親しみを感じ、「農家の嫁になりたい」という憧れを抱いていました。

滋賀県に住んでいましたが、コロナ禍に夫が突然「北海道で農業がしたい」と言い出し、夫婦で話し合って、北海道への移住を決断しました。

【サポート体制について】

石狩市は、行政や農協、農家さんとの連携がしっかり取れており、困ったことがあった際のサポート体制がしっかりしていました。

移住相談時には家を探し、保育園にも話をつけてくれるなど、生活の立ち上げからしっかりとサポートしていただきました。

【就農して良かったこと】

良かったことは、自分の思いどおりに作業を進めることができ、おいしい野菜を作れることです。自分が育てた野菜を食べた方から「おいしい」と言っていただけると、とても嬉しく励みになります。自分の野菜が皆さんの食卓に届くことで、食に携われていることにやりがいを感じています。

【就農して苦労したこと】

苦労した点は、就農１年目は何もわからない状態で、また、天候にも左右され慌ただしく農作業が終わり、記憶にないほど忙しかったことです。また、自らビニールハウス１棟を建設した際には、天候の影響により工事が計画どおりに進まないことがありました。

２年目以降は管理するハウスの棟数も増え、人に作業をお願いする機会が増えましたが、作業指示や人員管理の方法は研修で習っておらずとても苦労しました。やってほしいことをどう伝えるか、パートの方が家庭の事情で休む際にどう対応するのかなど悩みました。現在は農作業のマッチングアプリなどを活用して何とか回している状況です。

最も苦労したのは資金面です。3、4年前の研修時の情報よりもハウスや資材などの価格が就農当時には2倍程度になっていました。当初は夫と一緒に農業をする予定でしたが、予想以上に費用がかかったため、夫には外で生活費を稼いでもらう形に変更しました。

【工夫していること】

多くの人に知ってもらうためにSNSを活用したり、直売所でミニトマトを販売して顔や名前を覚えてもらうように努めています。

また、農業機械については、高岡地区の新規就農者5～6名でトラクターを共同利用する「農機シェア」の仕組みを活用しています。トラクターの購入には多額の費用を要するため、新規就農者にとっては大きな負担となりますが、この仕組みにより導入コストを抑えることができ、大変助かっています。

【活用した事業】

・就農準備資金・経営開始資金
・青年等就農資金

【所有する機械・設備などの状況】

・ハウス4棟（75m×4）
・農機シェア



【ミニトマトのハウス】

【ファームGAKUのロゴ】

【地域との関わり合いの重要性】

関西から移住してきたこともあり、知り合いが一人もいなかったため、保育園や小学校の役員など、積極的に務めました。役員を通じてママ友ができ、子供を見てもらえるような関係も築けました。

また、石狩市で年に1回開催される出店者50店舗規模のフェスの実行委員も務め、知り合いの輪を広げました。

このほか、収穫した野菜を近所の方々に届けたり、野菜の物々交換をしたりしながら、地域の皆さんと交流を深めています。

【今後の展望】

目標は、人が訪れて楽しみ、おいしいものを食べて笑顔になるテーマパークのような農園にすることです。

人が訪れ、交流が生まれることで地域が活性化し、お世話になった石狩市への恩返しができればと思っています。また、のどかな雰囲気が広がる高岡地区にさらなる賑わいを生み出したいと考えています。

また、自身で収穫したトマトを使い、キッチンカーでピザを作るなど、楽しいことができればと思っています。

冬季は、現在栽培しているサツマイモを使用し、芋けんぴの商品化（6次産業化）の検討を進めたいと思っています。

来年以降はハウスを増棟して、アスパラを植えたり、メロンも本格的に栽培していきたいと考えています。



【店頭に並ぶミニトマト】



【サツマイモの畑】

【就農を目指している方へのアドバイス】

農家になるという強い気持ちがあれば、夢に向かって進めると思います。自分自身は農家に向いていないと思っていましたが、実際にやってみたいと強く感じ、多くの人に助けてもらいながら農家になれました。

就農を決めたら、その気持ちをもって突き進むことが大切だと思います。

私たち夫婦は、何も分からない状態でこの地域に入ってきたため、さまざまなことを教えてくださる周囲の方々と良好な関係を築くことが大切だと考えています。